

## Xジェンダー

中 一

「ぼくは女の子です。」

あなたは、これを聞いてどう思うだろうか。

「この子は変な子だ。」

そう思う人もいるかもしれない。しかし、性別に  
関して悩んでいる人はたくさんいるのだ。

LGBTQとは、レズビアン、ゲイ、バイセク  
シュアル、トランスジェンダー、クエスチョニン  
グ/クイアを略したものである。レズビアンとは、  
女性が女性を好きになることであり、ゲイとは、  
男性が男性を好きになることである。バイセク  
シュアルとは、心も体も一致しているが恋愛対象  
は男女両方のことであり、トランスジェンダーと  
は、心と体の性に違和感があり、恋愛対象は、異  
性と同性のどちらか、または両方の人のことであ  
る。クエスチョニングとは、心の性や恋愛対象が  
揺れ動いたり、定まらなかつたりすることである。  
クイアとは、男性と女性の二つの性別だけでなく、  
その枠に収まらない人々を指す。つまり、男性・

女性という枠にとらわれず、一人の人間でありた  
いという考えをもつ人のことである。世の中には、  
このような人たちがたくさんいる。Xジェンダー  
は、トランスジェンダーに含まれるもので、X  
ジェンダーにも四つの種類がある。中性、無性、  
両性、不定性の四つで、ぼくはその中の中性であ  
り、女性でも男性という二つの性の中間地点にあ  
ると自認している。Xジェンダーは、日本におよ  
そ百十六万人いると言われている。

ぼくが性別に違和感をもったのは、小学校四年  
生のときだった。可愛いものより、かっこいいも  
ののほうがよいと思うようになったり、女の子よ  
り男の子のほうが気が合うことが多くなったり、  
何より男の子になりたいと思うようになった。し  
かし、そこから一年間は怖くて誰にも話せずにい  
た。言ったら相手から否定されてしまう気がして、  
ぼくから離れてしまう気がして怖かった。

しかし、今思えば話してよかったと心の底から  
思う。ぼくには姉と兄、弟がいる。姉と兄に、性  
別のことに悩んでいることを伝えたら、姉  
と兄は真剣に話を聞いてくれた。真剣に相談に  
乗ってくれて、何も否定せず受け入れてくれた。

姉と兄に相談をして親にも話すことにした。親に話しているときどんな反応をされるのか怖くて、泣いてしまったが、親も姉や兄と同じように泣いている。ぼくの背中をさすりながら、親身になって話を聞いてくれて、寄りそってくれた。学校で、クラスの人に事情を話しても、クラスの人はいつもおどおど接してくれた。ぼくにとってその対応はとても嬉しかった。ぼくの考えを認めてもらえたような気がして、いつもどおどおど接してくれたみんなの優しさがとても嬉しかった。最初はとても心配だったけれど、実際に行動すると何も変わらなくて、何も心配することはなかったと思った。

人にはそれぞれ価値観があるから、人の立場になつて考えることは、とても難しいことであり、簡単にできることではない。しかし、もしかするとあなたの周りにも性別に関して悩んでいる人がいるかもしれない。自分から、この人は性別について悩んでいると気付くのはとても難しいことである。だからこそ相手から、「性別について悩んでいる。」

と言われたら優しく接してほしい。特別扱いではなく、相談に乗るだけで、もしかしたらその人の

気持ちも少しでも楽になるかもしれない。この作文が一人でも多くの人に届いて、性別について悩んでいる人の支えになることを願う。この作文を読んだあなたが性別について悩んでいる人を見かけたなら、そのときどう対応すればいいのか考えてみてほしい。

ぼくにとって、LGBTQやXジェンダーは、一つの個性だと思う。この先も、性別に関して悩む人はたくさんいると思う。しかし、そういう人たちが悩まず苦しまず、胸を張って、

「わたしは、こういう人だ。」

「ぼくは、こういう人だ。」

と言える社会になつてほしいと思う。そのためにもぼくたちができることは、まず、否定せずその人を認めることだと思う。ただ、世の中にはいろいろな考えをもつ人がいる。ぼくの考えが必ずしもみんなに伝わるわけではない。それでも、この作文を読んで、性別関係なく一人の人間として、一つの個性として受け入れてくれる人が少しでも増えてくれたら、ぼくは嬉しい。

では、もう一度質問しよう。

「ぼくは女の子です。」

あなたはこれを聞いてどう思うだろうか。